

N-1 : 参加者ネットワーキング

開催日時・会場 9月17日(木曜日) 15:15 - 16:45 会場F

学術変革研究領域申請を通じた URAのネットワークの重要性について

科研費・学術変革領域研究は、「多様な研究者の共創と融合により提案された研究領域において、これまでの学術の体系や方向を大きく変革転換させることを先導するとともに、我が国の学術水準の向上・強化や若手研究者の育成につながる研究領域の創成を目指す」という趣旨のもと、複数の研究機関で仮想研究チームを構築し、一つの領域を作り上げる公募種目である。当該公募の申請にあたっては、領域代表(総括班)をはじめ、複数の計画研究(計画班)がそれぞれ研究計画書を記載する必要がある。しかしながら、その申請支援はそれぞれの研究機関内で閉じており、各機関で共有されないため、申請時領域の目標が異なっているなど、各計画班で独立した研究計画書となっている。URAが組織間で連携することにより、よりよい研究領域を推進することができるのではないかとその方法とはどのようなものがあるのか?などをネットワーキングを通じて検討する。(当セッションでは特定の答えを出すようなことはしません。科研費に関心のある方でしたらどなたでもご参加ください。)

セッション担当者(ファシリテーター)

角村 法久:甲子園大学 企画調整室 主任企画員



国立大学法人化前の2003年4月に、徳島大学の事務職員として入職。2009年4月から3年間JSPSに出向し、科研費の審査委員選考業務を担当。その後、URAに魅力を感じ、2015年5月から特任助教として研究支援業務に挑戦。2019年3月の任期満了に伴い大学業界から離れるつもりが、2019年5月から四国大学にて補助金管理を1年担当。現在は、甲子園大学@宝塚市にて認証評価に従事。好きな食べもの:カツオのたたき、趣味:旅行、好きな国:ルーマニア。

田中 有理:東京都立大学 総合研究推進機構 URA



九州工業大学、中央大学にそれぞれURAとして勤務、2018年から東京都立大学(旧:首都大学東京)URA。国立大学、私立大学、公立大学のそれぞれの大学において求められるURAの機能を諸先輩方に学びつつ、日々スキルアップを目指しています。科研費の支援を通じた学術研究の向上について関心を持っています。科研費マニアの方もそうでない方も、気軽にご参加いただけるセッションを目指します。